



書道家
武田双龍



先月の「イカす人・綺麗な人」珠玉の言葉
鴻上尚史

×

どんな仕事にも、楽しさを見出す

真面目に出す



第三十二筆

どんな仕事にも、楽しさを見出す

私は、中学時代の演劇部から始まり、大学で劇団を作って、今まで活動してきました。これは、そんな中でいつも心にある言葉。日本人で、根性やガッツというのが好きで、部活動だと特に、先輩が強くものを言って、それを後輩が必死になって頑張る、というのが構図になっていたけれど、そんなことより、本人がそれを「楽しんで」やっていたら、ほっといても努力するでしょう。だから中学時代から、「どうせ演劇をやるんだったら楽しくやろうよ」と、常に思いながらやってきたんです。もちろんそこには、しんどい状況はつきまとうけれども、そんな中でも「何か楽しさを見出しやろうよ」と。これは、どんな仕事にも通じることだと思いますね。

武田双龍

見方が変われば、世界は何十倍にも大きく感じることができます。毎日の仕事をこなしていく度に、世界に感動しています。

昭和五十九年熊本県生まれ。三歳より書を学び始め、母・武田双葉に師事。書道家・武田双雲は実兄。書道教室 ふたばの街を開講。テレビや新聞、雑誌など幅広いメディアで活動中。
<http://so-ryu.com/>